

別府大学大学院文学研究科・食物栄養科学研究科主催 講演会およびシンポジウム開催報告

新型コロナウイルス感染症の流行に関連して、過去の天災、疫病について振り返り、将来への教訓を得るために、災害をテーマにした専門家の講演と本学教員を交えたシンポジウムを開催し、文化的、社会的、心理的影響や将来への展望についてそれぞれの専門的知見を共有することを目的として、11月7日(土)に39号館4階メディアホールにて講演会及びシンポジウムが開催された。新型コロナウイルス感染症対策として、一般の人々の入場を断った状況での開催となった。概要は以下の通りである。

○テーマ「災害の過去・現在・未来——天災と疫病と」

基調講演：「新型コロナウイルス感染症への対応」

中島 一敏 氏（大東文化大学教授）

シンポジウム：

司会：針谷 武志 教授（歴史学専攻）

パネリストの報告

「災害・疫病時代の日本中世史研究」赤松 秀亮 講師（歴史学専攻）

「百年に橋架けるコミュニケーション：リレーシステムと記号論」

内山 和也 准教授（日本語・日本文学専攻）

「文化財と災害」

渡辺 智恵美 教授（文化財学専攻）

「生命と文化・歴史をつくる感染症」

仙波 和代 教授（食物栄養学専攻）

「災害支援者への心のケア」

矢島 潤平 教授（臨床心理学専攻）

飯坂晃治准教授の進行の下、針谷武志文学研究科長の開会の辞に始まり、飯沼賢司学長が開催の意義等について述べた。その後講演者である中島一敏氏の紹介及び講演が行われた。

休憩を挟んで行われた針谷武志文学研究科長の司会によるシンポジウムにおいては、5名の本学大学院教員がそれぞれ報告を行った。引き続き中島氏とともに活発な意見交換が行われた。

その後、樋園和仁食物栄養科学研究科長による閉会の辞があり、講演会・シンポジウムが終了した。

このように、本学大学院文学研究科・同大学院食物栄養科学研究科の両専攻に所属する専任教員による知の集合として、統一したテーマのもとにシンポジウムを開催できたことは大変有意義であったと思われる。来年度も本学大学院主催の講演会・シンポジウムを予定している。